



【表1】学校完全週5日制実施前後の充実度の変化(%)

	小学2年生	3年生	5年生	6年生
実施後の方が充実	12.6	12.1	11.4	11.5
変わらない	57.5	59.3	60.5	61.7
実施前の方が充実	20.8	20.5	20.3	19.4
不明	9.1	8.1	7.8	7.4
回答者数	14,423人	14,353人	14,405人	14,623人

「完全学校週5日制の下での地域の教育力の充実に向けた実態・意識調査」より

対象…小学生の子どもを持つ保護者

求められる 「学校と地域の連携」

最前線

The Front Line of Education

地域の教育力を生かす開かれた学校へ

教育

学校完全週5日制が理解されていない現状

文部科学省の調査では、学校が完全週5日制になって子どもが生活が充実したと考える保護者の数は「表1」が示す通り、ごくわずかです。大半の保護者は以前の方が充実していた、または変わらないと感じており、一番の理由は、制度導入後に子どもがテレビやビデオを見る時間が増えたことです【表2】。また、完全週5日制の趣旨が社会全体で理解されているとする保護者は非常に少なく、スポーツ活動や文化活動などの催し物の情報を求めているという結果が出ています。

この調査を見る限り、十分な対応策もないままに完全週5日制に移行したといえるでしょう。休日が増えた分だけテレビゲームで遊ぶ時間も増え、一方で学校教育の内容は削減された。国際競争力が必要だといわれながら、こ

のままでは日本の教育水準は低下してしまい、子どもたちの将来はどうなるのかと不安に駆られるのも無理からぬことです。

しかし、子どもたちに強制的に学ばせて、効果があるのでしょいか。ずいぶん前から子どもたちの学ぶ意欲の低下が懸念されています。はたして、子ども自身に学ぶことの意味を十分にとらえられないで、教室の学びの場は成立するのでしょうか。

確かに教科の学習の重要性は否定できません。しかし、それだけで子どもの発達に必要なものが提供できるのかという疑問、教室外の学びやさまざまな体験が教室での学習を支えているのではないかという思いが、教育関係者の間で強く出てきています。

実際、各種の学力調査の結果にもそれは表れています。「生きる力」「心の教育」「ゆとり」といったスローガンには、現在の子どものうちや教育にはこれらが欠けている

学校教育は、各教科の教育では抱いきれない要素に目を向けようと大きく変わってきました。その方向性を明確にしたのが、昨年度から始まった新学習指導要領です。学校完全週5日制や「総合的な学習の時間」を導入し、各教科の教育内容を大幅に削減しました。その新しい学校教育を進める力ぎとしてクロージングアップされているのが、学校と地域との連携です。両者の望ましい関係とはどのようなものでしょうか。

と痛感した教育関係者たちの危機意識が集約されています。

保護者や地域からゆだねられて公教育があるとするれば、もう一度、家庭や地域社会という源から、学校教育を補正・充実していこうという、教育の根本に立ち返った発想からさまざまな政策が行われています。

地域の教育力が子どもの成長・発達を促す

学校が子どもたちを取り込みすぎて、その結果、成長や発達に支障を生じさせているとすれば、子どもたちを地域社会に返すことで、健全な発達を促すことができるのではないか。このような考え方に立って生まれたのが、学校教育の一環として、地域の教育力を取り込む試みです。地域の人たちから学ぶ機会を学校で設定したり、子どもたちが地域に出掛けて学ぶということが行われてい

ます。

お年寄りからわざわざ作りを学ぶ子どもたちの姿が新聞やテレビで地域のニュースに取り上げられることもあります。それは、お年寄りから学び、そして、机上の知識としてではなく、実物に触れて自分の手を実際に使ってモノを作るといった体験を貴重なものと考えているからにほかなりません。

兵庫県でよく知られているのが、学校以外の学びの場を地域に用意した「トライやる・ウィーク」の取り組みでしょう。わずか1週間ですが、公立中学校の2年生が地域の企業や商店、図書館、病院などで実際に活動するものです。

このトライやる・ウィークを体験した中学生たちは、学校では見つけられなかった自分自身に気づいたり、働く大人たちの生き方や学校以外の新しい世界に触れています。参加した中学生の9割が機会があればもう一度やりた

【表2】休日の充実度に対する評価と学校完全週5日制実施に伴った変化(%)

小学2年生の保護者			
▶実施後の方が充実	▶実施前の方が充実		
①親子と一緒に過ごす時間が増えた	84.0	①テレビやビデオを見る時間が増えた	79.0
②親子の間の会話が増えた	79.8	②テレビゲームやコンピュータゲームをする時間が増えた	61.8
③生活に時間的なゆとりが増えた	77.5	③親子と一緒に過ごす時間が増えた	59.8
④家族そろって食事をすることが増えた	68.7	④自由な時間が少なくなった	52.5
⑤家庭でお子さんの勉強をみるようになった	64.9	⑤夜更かしをしたり朝遅くまで寝ているなど生活習慣が乱れるようになった	51.0

小学6年生の保護者			
▶実施後の方が充実	▶実施前の方が充実		
①生活に時間的なゆとりが増えた	74.5	①テレビやビデオを見る時間が増えた	76.3
②親子の間の会話が増えた	73.4	②夜更かしをしたり朝遅くまで寝ているなど生活習慣が乱れるようになった	62.7
③親子と一緒に過ごす時間が増えた	71.7	③テレビゲームやコンピュータゲームをする時間が増えた	61.9
④友達と遊ぶことが増えた	66.2	④親子と一緒に過ごす時間が増えた	49.3
⑤家族そろって食事をすることが増えた	58.7	⑤学習塾が盛んになった	48.7

〔完全学校週5日制の下での地域の教育力の充実に向けた実態・意識調査より〕

(複数回答・上位5項目)

兵庫県は全国に先駆けて生涯教育推進のための拠点をつくり、小学校に「自然学校」を導入するなど学校と社会教育の融合を進めてきました。が、昨年度からは学校完全週5日制の実施に向けて「いきいき学校」応援団を設置したり、「スポーツクラブ21ひょうご」や「ふ



「トライやる・ウィーク」は貴重な体験を得られる学びの場。

いと考え、保護者や教師も積極的評価を下しています【表3】。

学校と地域が対等なパートナー関係を

「地域連携」には、学校が主体となつてカリキュラムの一つとしてつくり上げるものもあれば、地域活動に学校がかかわっていく場合もあります。学校や子どもたちが地域社会の行事や生涯学習に積極的にいかかわり、地域を活性化するという試みです。

るさと文化再発見アクションプラン」など地域が学校と一体となつて子どもを育てる取り組みを行っています。小野市の「ハートフルコミュニティ21」など、兵庫教育大学の近隣の自治体でも学校と社会教育との協働事業が活発に展開されています。

このように地域連携は、学校と地域が双方で子どもたちの学びの場を組織し、両者が相互乗り入れして、子どもの成長や発達を確かなものにしてしようとする新しい取り組みとして大きな期待が寄せられています。しかし、それが一過性のものではなく、実際に継続的に展開され、目に見える成果を挙げるためには、課題もあるようです。

地域にはさまざまな教育的資源があります。それらの中から異なる年齢の子どもたちの健やかな成長・発達にとって価値あるものを選び出し、学習活動に適したものに編成しなければなりません。そのために、地域には学校の教員と協力して子どもたちの学習を導く指導者が必要で、すし、教員には子どもが地域で学んだことを教室の学習に生かせるよう指導する力や工夫が必要となります。地域と学校が協力して子どもたちの豊かな学びを持続して進めるには、両者の対等なパートナーとしての関係

【表3】トライやる・ウィーク実施後のアンケート調査(%)

	14年度	13年度
●生徒(回答3,218人)		
家庭で話し合った	63	64
指導ボランティアや地域の人たちとのふれあいができた	89	91
充実した1週間であった	94	93
機会があればもう一度やってみたい	86	87
●保護者(2,982人)		
子どもと事前に話し合った	79	80
子どもと期間中に話し合った	87	87
活動を通して、子どもに対する見方が変わった	46	47
機会があれば参加させたいと思う	91	93
●関係者(1,000人)		
積極的に生徒は取り組んでいた	81	85
生徒は1週間で変化が見られた	70	71
中学生に対する見方が変わった	53	52
来年以後もこの活動に協力したい	66	69
●教職員(233人)		
一人ひとりを大切にしたい取り組みができた	84	83
生徒たちに変化が見られた	47	46
有益な活動であった	79	82
生徒の新たな側面などの発見があった	79	76
教育活動を考える契機となった	57	64

〔北播磨教育事務所資料より〕

が不可欠でしょう。これらの課題が達成されるには、学校という場所が、これまでに以上に地域に開かれる必要があります。単に地域に場所を提供するといった消極的な開放では不十分です。地域の人々の援助を求め、以上は、学校がどのような教育を行おうとしているのか、そのために学校はどのように運営されるべきかなどについて、保護者や地域の人々の理解と支持が必要で、場合によっては、厳しい意見を受け入れることも必要になるでしょう。

学校はこれまで地域というより、どちらかと言えば、国という観点から教育を行ってきました。しかし、地域の教育力に期待する

ために、また、地域社会から委託されて教育を行っているという原点に立ち返れば、地域に開かれた学校であるのは必然でしょう。そのような試みの一つとして、保護者や地域住民が学校運営に参画できるように「学校評議員」が学校ごとに置かれています。学校と地域をつなぐものとしてその意義は大きいといえます。

こうして見てくると「学校と地域との連携」というのは、教育を原点からとらえ直そうという試みだといえるでしょう。子どもの教育を担えるような地域にするのは、大人の責任であり、また、そういう地域をつくり上げることは、大人自身がより良く生きることにもつながっていきます。

教育

学校と地域がともに手を携え
子どもを育てる

((地域連携))
活動レポート

3世代交流の
恒例行事

社町立三草小学校

5月10日(土)、社町の三草小学校では「ふれあい茶摘み」が行われました。20年ほど前から続いているこの恒例行事は、PTAや老人会、婦人会などの人々を招き、校内の茶畑で児童と一緒に茶葉を摘み、交流を図るものです。



一緒に茶を摘むうちに自然と会話が弾みます

まずは、全校生約120人と地元住民約150人が名刺交換。見慣れない顔ぶれを前にして低学年の子どもはやや緊張気味です。「名刺には住所が書かれています。茶摘みで地域のひとと親しくなり、その後も文通をしている児童もいます。お年寄りたちも茶摘みの時期が来るのを楽しみにされていますね」と塩田裕成教諭。

茶摘歌を歌って、いよいよ茶摘みを開始。最初は家族や友達と摘んでいた児童も、次第に雰囲気慣れてきて、周りの大人たちに積極的に話し掛けます。

「親と子、お年寄り。3世代が交流できるのは有意義なこと。子どもたちには、この機会にいろんなことを学んでほしいです」と、1年生の娘、朱音さんと参加した伊藤富裕子さん。朱音さんは隣にいた「ベテラン」のおばあさんから摘み方を教わり、茶葉の入った袋がどんどん膨らんでいきます。

「この辺りはいい意味での田舎です。だから、地域で子どもを育てると



名刺を交換して互いに自己紹介

いう意識が昔から根付いています。地域と学校の連携という観点で言えば恵まれた環境にありますね」と塩田教諭は話します。

昨年度から総合的学習の時間が導入されたことにより、学校教育における地域住民の「出番」は、ますます増えていきそうです。

((地域連携))
活動レポート

バスケット人気は
上昇気配

加西市
ミニバスケットボール教室

昨年、加西市で市内の小学生を対象にしたミニバスケットボールのクラブが発足しました。「バスケットの魅力を知ってもらおう」と、休日に子ども

((教師が考える地域の教育力))



地域を学ぶ
「ふるさと学習」

社町立鴨川小学校教諭
中村千恵子さん

今年で創立130周年を迎えた鴨川小学校は、全校生46人。山間にある小さな学校です。昔から地域と学校とのかかわりは深く、地元の方が参加される学校行事も多々あります。

総合的な学習が始まるずっと以前、昭和59年から「ふるさと学習」を実施し、地域の人々の協力も得て、鴨川の自然や伝統文化を学ぶ授業をしてきました。つい先日、1、2年生が「春のお宝をゲットしよう」をテーマに、農家の方に教えてもらいながら、花の種や山菜などを教室に持ち帰ってきたんです。

鴨川小の地域における取り組みは、近隣の小学校も参考にされているようです。なかなか地域と連携を図りにくい学校もあると思いますが、教師の子どものことを思う気持ちは同じ。鴨川小でできることは他の小学校にも必ずできると思います。

を受け入れるという目的でスタートしました」と、発起人である(財)県体育協会の仲田高幸さん。

仲田さんをはじめ5人の指導者は全員がバスケット経験者。熱意ある指導が実を結び、46人の参加者は競技の楽しさに目覚めてきたといえます。6年生で男子キャプテンの小林大希君もその1人です。

コートの外で練習を見守る母



高学年に戦術を指示する仲田さん(左)

学校完全週5日制が導入されたことにより、県内各地では「学校と地域の連携」を掲げた取り組みが活発に行われています。また、地域の大人が自主的に休日の子どもを受け入れる動きも見られます。こうした活動を通じて子どもたちは何を学び、成長や発達にどのような影響を受けているのかを探ってみました。

の美智子さんは「テレビゲームばかりしていた子が、練習に参加してからは活発になりました。自信がついたような気がします。バスケットを話題に親子の会話も増えましたね」とミニバス効果による息子の変身ぶりにうれしそう。

現在、野球やサッカーに人気が集出し、市内の4つの中学校のうち男子バスケットがあるのは2校だけになりました。この小学生クラブが火付け役となり、多くの子どもがバスケットに関心を持つようになったら中学校の部も復活するかもしれません。

「活動を続けていくには保護者の協力が必要不可欠です。こちらから具体的にお願ひしていいのに、練習後のお茶の用意などを自主的にしてくださって大変ありがたいです」と仲田さんがたいです。

当面の目標は東播大会で好成績を挙げること。小学生たちの間で高まりつつあるバスケットは、声援を送る親も巻き込み、さらに加熱していきます。

白熱した紅白戦。ドリブルシュートも板につきました
※ミニバスケットボール…通常よりもゴールを低くするなど小学生向けにアレンジしたもの



((保護者が感じる地域の重要性))

地域の中で 子どもの安全を

前附属小学校PTA副会長
松本尚実さん



附属小学校には杜町のほか、近隣市町から通ってくる子どもも多くいます。それだけに総合的な学習の時間以外に、地域の人たちとふれあう機会は他校に比べて少ないと思います。休日の過ごし方は各家庭それぞれで、居住地の自治会活動などに子どもを参加させている家庭もあれば関心の薄い保護者もいます。

個人的には、学校と地域との交流をもっと活発にしてもらい、家庭では地域活動に子どもを参加させて交流を深めた方がいいと考えています。その理由の1つは「子どもの安全」です。親としては地域の中で子どもを守っていただきたいという気持ちがあります。安全面で学校と地域と家庭が協力し合うためには、あいさつをきちんとさせる、交通機関を利用する際は他人に迷惑を掛けないなど、基本的なしつけはとて大切だと思っています。

「地域連携」の現状と 今後の課題について



解説
生徒指導講座教授
渡邊 満

Q1 学校と地域のより強い連携が求められる中で注目されてきた「学校評議員」とは何でしょうか。

A 各学校に設置され、その学校の特色や地域の特性に応じ、課題や運営のあり方などをきめ細かく見ていく制度です。学校に子どもを通わせている保護者のほか、地域の人も評議員として迎え入れており、そこがPTAとの大きな違いです。

Q2 各地で活発化してきている地域活動ですが、子どもはどこで何を学ぶのですか。

A 地域活動の内容は多岐に及びますが、共通していることは人と人との交流です。幼児からお年寄りまで地域のさまざまな人と交流すること

で、子どもは自分が多くの人々とともに暮らしていることに気づきます。人と人の関係の大切さや、身近な自然やものが自分たちと密接につながっていることも知るでしょう。

Q3 地域活動には子どもだけでなく、親も参加すべきですか。

A 保護者の条件もさまざまですが、その条件に合ったところで参加できるように考えることが良いのではないのでしょうか。子どもの年齢によっては、親が参加することに抵抗を示す場合もありますが、親の参加、特に指導者としての参

加は、子どもが今まで知らなかった親の姿を知る良い機会になるでしょう。その際、学校や地域が何を求め、保護者が何を提供できるのか、といった両者をコーディネートする制度が必要になってきます。

Q4 地域活動に積極的に取り組んでいる地域とそうでない地域があり、場所によって温度差があるように思いますが

A 地域の共同体が根づいている所では、地域活動が比較的容易です。古くからある学校では、親の世代から学校になじんでいるなど、学校と地域が連携しやすい条件が整って

ます。一方、人の出入りが激しい所や新興住宅地では、地域の間関係が希薄です。行政も含めて地域社会全体の問題としてとらえ、地域の特色を生かした活動を考えることが必要でしょう。

Q5 兵庫教育大学は「地域連携」にどのような力がかかわっていますか。

A これまで生徒指導講座、教育経営講座などで「地域連携」に関する制度面の研究や政策立案面での提言、それにかかわる人材養成を行ってきました。今後は、地域との連携を推進できる学校教員、

地域の活動を進められる指導者の養成も重要な課題になると思います。また、大学が地域との連携を進める必要があります。兵庫教育大学では、杜町や兵庫県と提携し、地域連携の核として地域交流推進センターを設置しています。そこでは公開講座をはじめ、スクール・パートナーシップ事業、杜町のケーブルテレビへの番組提供などを行っています。今後はそれらを拡大することにも、教育内容の提供、学生ボランティアなどの人材派遣など、学校や地域の学習活動への支援を多様なかたちで進めていくことが必要だと考えています。

From research notes.



時 分	月	火	水	木	金	土	日
8.00	9.10						
9.00	10.00	作	作	作	作	作	(一)
10.40	11.00	遊	遊	遊	遊	遊	(二)
11.40		遊	遊	遊	遊	遊	(三)
11.40		遊	遊	遊	遊	遊	
0.50		食	食	食	食	食	

(のもの月一十期学二第)

昭和8年12月号の「郷土教育」に「低学年の時間割例」として掲載された。昭和10年では作業と遊戯が合体していた

昭和4年1月「教育論叢」に掲載された時間割例。学習、自由運動、団体活動などで区分されていた

第 一 校 時	第 二 校 時	第 三 校 時	第 四 校 時	第 五 校 時	第 六 校 時	第 七 校 時	第 八 校 時
午前 8.50—9.10	午前 9.10—9.30	午前 9.30—9.50	午前 9.50—10.10	午前 10.10—10.30	午前 10.30—10.50	午後 1.00—1.20	午後 1.20—1.40
10 分間	10 分間	10 分間	10 分間	10 分間	10 分間	10 分間	10 分間
朝會 (值日水金)	朝會 (值日水金)	朝會 (值日水金)	朝會 (值日水金)	朝會 (值日水金)	朝會 (值日水金)	朝會 (值日水金)	朝會 (值日水金)
學習	學習	學習	學習	學習	學習	學習	學習
自由運動	自由運動	自由運動	自由運動	自由運動	自由運動	自由運動	自由運動
主トシテ遊戯的學習	主トシテ遊戯的學習	主トシテ遊戯的學習	主トシテ遊戯的學習	主トシテ遊戯的學習	主トシテ遊戯的學習	主トシテ遊戯的學習	主トシテ遊戯的學習
食	食	食	食	食	食	食	食
食	食	食	食	食	食	食	食

昭和4年1月「教育論叢」に掲載された時間割例。学習、自由運動、団体活動などで区分されていた

そのうえで、近代学校の時間割に共通する編成原理と各国の独自性を示すことを共同研究のテーマにしました。時計が庶民の日常生活に普及したのが19世紀ですから、それ以前の学校には厳密な時間割はなかったはずですが、19世紀のアメリカの公立学校で時間割編成が始まった経緯を調べてみると、時間割編成の目的は2つありました。1つは、子どもに時間を守ることの大切さを教えることで

プロテスタンティズムに従えば、時間の管理者は神でしたが、その権威は親に、親の権威は教師に付託されました。だから、神の決めた時間の秩序を子どもたちに教えることが教師の義務となつたのです。明治初期の日本では、アメリカの教授理論書が多数翻訳されて授業時間割のモデルとなりました。その背景には時間の管理者としての教師の姿がありました。

2つめは学校経営の能率化です。19世紀のアメリカの学校では、1つの教室の中に1人の教師と複数の生徒集団(クラス)が存在しました。そこで、教師は時間を区切ってクラスごとの指導をするために時間割を作成したのです。19世紀末に生徒数が増え、学年・学級制度が出現し、教師の分業体制が確立すると、時間割はいっそう厳密になっていきました。このとき、教師の権威は、能率を追求する組織の原理に吸収されたとみることができます。

20世紀になると、子どもの生活リズムの尊重、子どもが時間割を編成することなどを目標に掲げた新しい時間割が出現しました。また、教科ごとに時間を区切るのではなく、集団活動の時間と個別活動の時間という区別だけをす

る時間割も実施されたことがありますが、それらは近代学校の時間割編成原理の根本的な転換だったのででしょうか。現在でも時間割の弾力化が主張されていることは、近代学校の時間割編成原理が今も強固であることを、逆説的に示しているように思われます。

なお、この共同研究は、兵庫教育大学の教育学関係の教官で構成されている学校教育研究会のメンバーが中心であり、文部科学省から3年間の科学研究費を受けています。

しかし、子どもの生活のリズム

時間割が出現した経緯と編成原理、時間割が果たした機能を解明し、そのうえで、近代学校の時間割に共通する編成原理と各国の独自性を示すことを共同研究のテーマにしました。時計が庶民の日常生活に普及したのが19世紀ですから、それ以前の学校には厳密な時間割はなかったはずですが、19世紀のアメリカの公立学校で時間割編成が始まった経緯を調べてみると、時間割編成の目的は2つありました。1つは、子どもに時間を守ることの大切さを教えることで

時間割を弾力化しようとする動きが、各地の学校で始まっています。新しい学習指導要領では、子どもが主体的に学習し、活動して問題を発見、解決することを促すために、授業の1単位時間を各学校が適切に定めることや、各学校が創意工夫して時間割を弾力的に編成することが奨励されています。そこで、2単位時間をひとまとめにしたり、10分や15分を1つの単位(モジュール)として柔軟に時間割を作成したりする方法が開発されています。

後のイギリス、アメリカ、ブラジル、および日本の小学校と幼稚園で時間割が出現した経緯と編成原理、時間割が果たした機能を解明し、そのうえで、近代学校の時間割に共通する編成原理と各国の独自性を示すことを共同研究のテーマにしました。時計が庶民の日常生活に普及したのが19世紀ですから、それ以前の学校には厳密な時間割はなかったはずですが、19世紀のアメリカの公立学校で時間割編成が始まった経緯を調べてみると、時間割編成の目的は2つありました。1つは、子どもに時間を守ることの大切さを教えることで

子どもの生活リズムに即した時間割は可能か



◎Miyamoto Kenichiro
教育基礎講座助教授

宮本健市郎

◎Sugio Hiroshi
教育基礎講座助教授

杉尾 宏・金丸晃二

◎Tanaka Yukitane
教育方法講座助教授

伊藤博之・田中亨胤

◎Nishikawa Tomoko
幼年教育講座助教授

名須川知子・西井麻美

◎Nishihara Mami
ノートルダム清心女子大学助教授

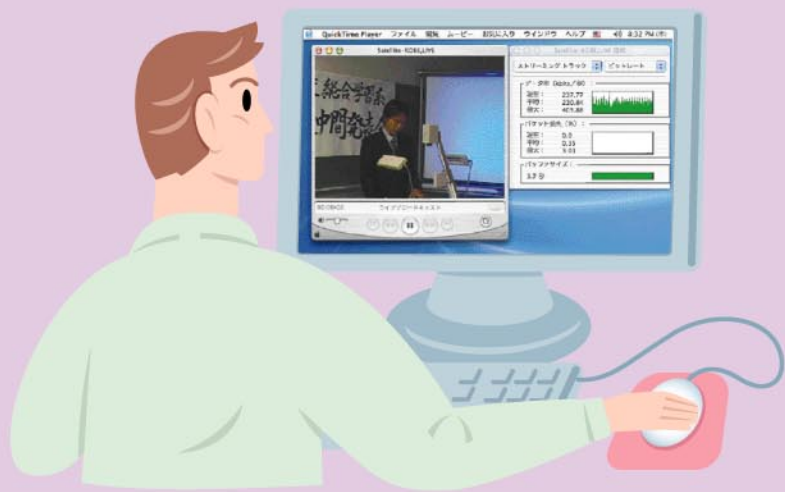
From research notes.

学校の教室に必ずあるテレビ。学びの場に映像や音声を送り届ける手段として、まず思いつくのはテレビやラジオといった放送メディアや、ビデオテープなどに記録された視聴覚教材でしょう。これらは学校教育の質の向上に大きく貢献してきました。とはいえ、こういった映像を学校で独自に作成したり、作成した映像を地域や保護者などに公開することは、撮影・編集・送信するための機材と技術が必要で、学校単独では実現が困難で非常に大変な仕事です。しかし、映像関連技術のデジタル化と低価格化が急速に進んできました。具体的には、デジタルビデオカメラや動画対応デジタルなどの撮影機材や、撮った画像を編集するためのコンピュータと低価格になった映像編集ソフトにより、「学びに必要な映像教材」や「学習の過程における映像メモ」、さらに「学んだ成果をまとめた映像」を簡単に作成することが可能になってきました。また、放送局に映像を持ち込んで放送を依頼したり、ビデオテープを複製して配らなくても、学校が直接放送局となつて、学校内や必要に応じて学校外にも映像を送ることが可能になりました。それが、校内ネットワークやインターネ

ットを利用するストリーミング配信技術です。

ストリーミング技術は、離れた場所にいる複数の視聴者のコンピュータに、ネットワークを通じて同時に映像を配信することを可能とします。デジタルビデオカメラからの映像を直接ネットワークに送り出すライブ配信（生中継）、あらかじめ記録された映像の配信（ビデオ・オン・デマンド）

学びの場における インターネットを利用した 映像・音声のライブ配信



の両方に対応します。昨年度はま

ず大学で、特に社会人学生に対する遠隔教育を念頭に置き、学生の研究発表を別のキャンパスあるいは自宅から接続している学生にライブで送り、ネットワークを通じて質疑を実施しました。また、学校教育研究センターで開かれたイギリスのシャロン校長先生の講演のライブ中継や、大阪府教育センターで行われた教員を対象と

する研究発表会のライブ中継および終了後のオンデマンド配信を行い、貴重な経験を頂きました。

現在、学校での利用について検討を行っています。校内ネットワークによる校内放送の実施や、学習成果の発信、後輩への継承など、さまざまな利用が可能ですが、ネット



学校教育研究センター
情報メディア教育研究部門助手
◎Yamashiro Shingo

山城新吾

同部門教授 ◎Narita Shigeru
同部門教授 ◎Nagase Hisaki
成田滋・長瀬久明

ワークの適切な整備や、情報セキュリティとの関連など、個々の学校の事情に応じて考慮すべき点は多くあります。しかし、学習者や教師が日常的に映像コンテンツを作成し、必要に応じて発信できることは大きな利点であり、日々の学習に新たな側面を拓く可能性を秘めています。

平成16年度からスタート 大学院修士課程の“改革”

主に初等中等教育の実践にかかわる学問を総合的・専門的に研究している大学院修士課程では、平成16年度から次の4つの改革に乗り出します。

- ① 学校教育における「心のケア」のエキスパートの養成を目的とした「学校心理コース」の新設
 - ② 大学院神戸サテライトの「昼夜開講制コース」を現行の2コースから8コースに拡充
 - ③ 仕事と学業の両立がしやすくなる「長期履修学生制度」の導入
 - ④ 新しいタイプの小学校教員への道を開く「小学校教員養成プログラム」の導入です。
- こうした改革により、多様化する時代のニーズに即した教育者の養成、学生にとって学びやすい環境づくりに一層力を入れていきます。

新たな時代の教育者をめざして

1

学校心理コースを新設

子どもの発達や成長を促す心理教育的援助ができる教師や、学校心理学の専門家をめざします。子どものさまざまな心理的・行動的側面についてのアセスメントを行うほか、予防・開発的教育援助のための教育計画の作成、親や他の教師へのコンサルテーションおよび学校外の専門家・機関との連携・対応ができる資質や能力を高めます。小学校・中学校・高等学校・幼稚園教諭の各種専修免許状のほか、学校心理士の受験資格を得ることができます。

2

昼夜開講制コースを拡充

大学院神戸サテライトでは、教職等の仕事を終えてから夜間に修学できる「昼夜開講制コース」を敷いています。現在の「教育臨床心理コース」と「総合学習系コース」に加えて、下記の6コースが新たにスタートします。

幼年教育コース

学校心理コース

言語系コース(国語、英語)

社会系コース

自然系コース(数学)

生活・健康系コース

3

長期履修学生制度を導入

大学院神戸サテライト(夜間クラス)の学生が利用できます。修士課程は2年間で規定の授業を履修するのが原則ですが、この制度を使えば3年かけて履修し学位や資格を取得できます。しかも、授業料は総額(2年分)を3年間で分割して納入できます。個人の事情に柔軟に応じ、ゆったりとしたペースで修学できます。

4

小学校教員養成プログラムを導入

修士課程への入学志願者の中で、小学校教員免許がないけれども小学校教員になることを希望する人に道を開きます。長期履修学生制度を特別に活用して、3年間で大学院の教育課程と学部の教職課程を合わせて履修します。これによって、教職に関する高度な専門知識と得意分野を持った小学校教員をめざします。



う れ し の 交 差 点

公開講座の 受講生 募集

兵庫教育大学では、教育研究の成果を広く社会に提供しようと、一般の方や現職教員、児童・生徒の保護者を対象に「公開講座」を開いています。教員養成系大学の特色を生かした講座内容で、みなさんの多様な学習意欲にこたえます。どうぞふるってご参加ください。



㊤開講日・時間 ㊦開講場所 ㊧定員 ㊨受講料 ㊩対象者

理科実験・観察の カンドコロ

理科の実験や観察に役立つ
勤所を、物理、化学、生物、地
学の4分野から選んだ4つの
テーマの実験を通して学びます。
㊤集中3日間。7月30日(水)・
13:30～17:00、31日(木)・
9:00～17:00、8月1日(金)・
9:00～12:30㊦大学自然、生
活・健康棟物理実験室ほか
㊧12人㊨7,200円㊩小中
高校教員および一般
参加受付:6月27日～7月11
日

発達が気になる 子どもの 家庭療育の方法

保護者一人ひとりに、ABA(応
用行動分析)を使った家庭で
も取り組める子どもの発育を
促すプログラムを指導します。
㊤9月6日、13日、27日、10月4
日、18日、11月1日、15日、29日、
12月6日。いずれも土曜日・
14:00～16:00㊦大学院神戸
サテライト㊧25人㊨8,200円
㊩発達に気になる子どもの保
護者
参加受付:8月6日～20日

現代子育て考 —すこやかに、豊かに—

今、あるべき子育てはどのよ
うなのか。教育学、心理学、
保育内容の各分野からの提
言も含め多角的に学びます。
㊤9月13日～11月1日の土曜
日(全8回)・13:30～15:00
㊦大学院神戸サテライト㊧
40人㊨7,200円㊩一般
参加受付:8月13日～27日

楽しく踊ろう ジャズダンスⅡ

心身を解放してジャズダンス
を楽しく踊り、潜在的な運動
能力やリズム感を開発し、よ
り豊かな生涯教育に向けた
体力づくりを行います。
㊤10月2日～11月6日の木曜
日(全6回)・18:10～19:40(最
終回は20:10まで)㊦大学体
育棟ダンスレッスン室㊧15人
㊨6,200円(傷害保険料別
途要)㊩一般(中学生以上、
現職教員含む)
参加受付:8月29日～9月12
日

絵画制作

油絵制作を基礎から指導し
ます。表現や創作の楽しさを
体感し、専門的な知識が身
に付けられます。
㊤集中4日間。11月1日(土)
～4日(火)・13:00～18:00
㊦大学芸術棟・絵画実習室
㊧20人㊨8,200円㊩一般
参加受付:10月1日～15日

地域貢献事業 「ビデオ講座 ライブラリー」の ソフトを制作

地域貢献事業「ビデオ講座ライブラリー」のソフトとして、中
世東播磨の特質を「道」を通して描いた「兵(つわもの)の
道 巡礼の道」と、乳幼児期から幼児期にかけての親子関係
のあり方などを描いた「子どもの世界」を制作しました。この
ライブラリーは、地域の生涯学習や学校教育の活性化に寄
与することをねらいとしており、関係機関に配布する予定です。



Books

「ア・ティーチャーズ・ロード・ムービー ～教師と海自と放浪と～」

鈴木高志著 健友館

推薦人:山本忠志(生活・健康系教育講座)

本学の学部卒業生が書いた本である。大学生活を終えた著者は、このまま先生になって何を子どもたちに教えられるのかと自問自答する。自分を見つめ直すため、海外への旅や海上自衛隊への入隊という人生を選び、教員になるための何かを見つけたらと思う。そして、自分の体験を子どもたちに伝えようと思い始める。この本は、現役学部生への忠告ともとれるかもしれない。4年間において、教育に携わろうとする自分を真剣に見つめ、何をもちて子どもたちを教えるのかということを考えさせる。現役学部生は、すぐそこに新たな発見や体験の場がたくさんあると思う。常に自ら考え、行動を起こしていく必要性を実感させられる一書である。



附属図書館で見つけた おすすめの一冊

校定新美南吉全集第3巻より 『百姓の足、坊さんの足』

新美南吉著 大日本図書

推薦人:福田光完(生活・健康系教育講座)

かなり以前、新美南吉の子ども向け絵本で「てぶくろをかいに」というのを知った。心温まる物語で、この作者の他の話をもっと読んでみたいと思うようになった。とりわけ、この「百姓の足、坊さんの足」は記憶に残る作品だ。ここでは、百姓は社会の底辺でひたすらまじめに生きる存在であり、坊さんはいわゆる「偉い人」である。ところが、偉い人の行いには、多くの自己満足的な偽善が存在する。それらの行いは、現世では何とか百姓をごまかせるのだが、あの世ではそうはいかなかった。現代社会でも肩書きのある「偉い人」が陥りやすい、ある種の「偽善」を痛烈に批判しているように思えてならない。小学生への読み聞かせにもおすすめ。



附属施設 リレー紹介

第3回 学校教育 研究センター



案内人
三野 耕
センター長



1980(昭和55)年創設(教育資料・交流分野、
教育工学分野、実地教育分野)。2002(平成
14)年に3部門7分野に改組。

学校教育研究センターは、学校教育にかかわる実践的研究を推進し、得られた研究成果を地域社会や学校教育現場に還元するとともに、学生に対し効

果的な実践的教育を行い、社会の要請に応えるため、高度な専門的力量のある教員の養成を目的とした教育研究施設です。

特に、プロジェクト研究は「学校における児童生徒の学習効果を上げるための総合的研究」「問題解決に要求される「確かな学力」を育成するための情報通信技術の応用と教師の情報活用力量形成に関する研究」「子どもの自然体験活動において学校教員に求められる指導資質能力に関する研究」について取り組んでいます。



今年1月、シャロン校長の講演のライブ中継を実施

学校問題解決研究部門、情報メディア教育研究部門、実地教育支援研究部門の3部門で構成。専任教官、兼任教官、ならびに外国人研究員、客員研究員および研究協力教官によって、各部門の教育研究活動だけでなくプロジェクト研究、地域の学校・社会への支援事業、刊行物の発行などを推進しています。

センターの利用と 教育相談のご案内

- 施設・設備等の利用
事前に手続が必要です。
- ◎学校教育研究センター事務室
☎0795・40・2202
- 学校なんでも相談室
学校関係者(子ども、保護者、教員等)を対象に学校問題の相談を受け付けています。
◎同相談室 ☎0795・40・2277

卒業生からのメッセージ

Messages From OB&OG



氷上町立西小学校教諭
細見隆昭さん

平成10年度学校教育学部
教科・領域教育専修自然系専修コース卒業

氷上町の西小学校の校区は、春はカタクリ、秋はコスモスの花が咲く、自然が美しい地域です。子どもたちとよく自然散策に出掛けています。学生時代のバレーボールの経験から、職場でもチームを組み、教職員の体育大会の県1位をめざして練習しています。兵庫県内の教職員には兵教大の卒業生がたくさんいます。どの職場でも1人はいらっしゃいます。同じ大学の出身者が頑張っている姿を見ると、私ももっとも子どもたちのために頑張らなくてはと思います。



三木市立広野小学校教諭
岡崎安秀さん

平成14年度大学院修士課程
教科・領域教育専攻総合学習系コース修了

総合学習系は研究のニーズに合わせて多岐にわたる知見が得られる知の総合の場。私の研究は、「総合的な学習の時間」を担当する教師に方法知と内容知の支援をするシステムを構築するもので、それに当たっては、この系の知の総合化が必要でした。システムの1つのBBS(何でも相談)は、大学と学校現場を結び、大学と学校および教師同士の知の共有ができるものです。システムは、大学内の総合学習推進支援研究会が運営を続けています。
<http://so-og.life.hyogo-u.ac.jp/>



群馬社会福祉大学専任講師
爾 寛明さん

平成12年度大学院博士課程
学校教育実践学専攻学校教育臨床連合講座修了

大学で保育原理、教育原理や保育実習を担当しています。特に保育実習は、保育現場と大学をつなぐ重要な科目であると考えており、毎年いくつもの保育所、幼稚園を訪問しています。大学院時代、教育実践学とは「教育の現場から得た課題を解決して現場に返すこと」と理解しました。それゆえに着任以来、保育の現場を視察し、保育者と意見交換や共同調査活動をしてきました。そこから見出したことを学会や論文で発表し、教育実践学の実践に努めています。

Campus Topics

キャンパス・トピックス

2003.1~6



武田県教育長(左)と握手する中刈学長

兵庫県教育委員会と兵庫教育大学が 高大連携で正式調印

3月4日(火)、兵庫県公館大会議室で、兵庫教育大学と県教育委員会が「県立高等学校生徒を対象とした大学の授業公開に関する協定書」の調印を行いました。

調印式では、兵庫教育大学をはじめとする調印8大学の紹介に始まり、武田政義県教育長が「高校生が学びの面白さに気づいてくれば」とあいさつ。引き続き、大学側を代表し中刈正堯学長が「高大連携によって、①大学へ入る前に高等学校で何を学ぶかの自覚を促すことができる②大学側は教養教育をはじめ、大学の授業改善を進めることができる③高校生の進路と大学側の受け入れとを緊密なものとする」ことができると期待を述べました。

調印式後に開かれた「高大連携等推進フォーラム」では、教育関係者ら約300人が出席。これまでの取り組みや今後の課題などについて熱心な討論が繰り広げられました。

1月

11日~2月8日

◎サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP)事業「科学技術・理科学習プログラム—数学入門—」(全3回)

18日~19日

◎平成15年度大学入試センター試験

25日

◎附属中学校立式

28日

◎学校教育学部推薦入学者選抜試験

30日

◎附属幼稚園研究発表会

30日~31日

◎附属小学校研究発表会

2月

1日

◎特別講演会「学校崩壊再生のリーダーシップ」シャロン・ホロズ爵

6日

◎運営諮問会議

15日

◎附属中学校総合学習発表会

16日

◎大学院連合学校教育学研究所入学者選抜試験

21日~3月1日

◎SPP事業「教員研修—身近な地形・地質の教材化」(全2回)

22日

◎附属小学校うれしのフェスティバル

25日~26日

◎学校教育学部前期日程入学者選抜試験

27日

◎学校教育学部私費外国人留学生特別選抜試験

3月

4日

◎高大連携協定書調印式

◎高大連携等推進フォーラム

12日

◎学校教育学部後期日程入学者選抜試験

◎附属中学校卒業証書授与式

18日

◎附属幼稚園修了証書授与式

19日

◎附属小学校卒業証書授与式

24日

◎大学院学校教育研究科学位記授与式

◎学校教育学部卒業式

◎大学院学校教育研究科(夜間クラス)学位記授与式

27日

◎大学院連合学校教育学研究科学位記授与式

4月

7日

◎大学院学校教育研究科入学式

◎学校教育学部入学式

9日

◎附属小学校入学式

◎附属中学校入学式

10日

◎附属幼稚園入園式

14日

◎大学院連合学校教育学研究科入学式

法人化に向けて意見、提案が 寄せられた運営諮問会議

2月6日(木)に「平成14年度第2回運営諮問会議」が開催されました。兵庫教育大学中期目標・中期計画の中間まとめおよび大学院修士課程の入学者確保について、各委員から「兵庫教育大学の特徴を打ち出すべきである」「専門職大学院制度に向けて教育現場の課題に応える教育・研究を」など、国立大学法人化を見据えた厳しい意見や貴重な提案をいただきました。最後に中刈正堯学長は「これらの意見や提案を今後を生かし、大学をより一層充実させていきたい」と決意を述べました。

サイエンス・パートナーシップ・ プログラム事業を実施

昨年12月から3月にかけて「平成14年度サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP)事業」による3講座、「理科教員のための組換えDNA実験講座」「身近な地形・地質の教材化」「数学入門」を開きました。文部科学省と連携して進めているこの事業は、大学や研究機関などの人材、施設、設備等を、中学や高校の科学技術・理科、数学教育に活用しようとするものです。講座に参加した教員、生徒からは「教科書やビデオなどからは学べない多くのことを学べた」などと好評を得ました。

今年度も、現職教員が対象の「理科教員のための組換えDNA実験講座」、総合的な学習の教材を開発し、理科教育に生かすことをねらいとした「身近な地形・地質の教材化(その2)」、高校生が対象の「正12面体の対称性」を開講する予定です。



組換えDNA実験講座

兵庫教育大学からのお知らせ

☎=問い合わせ先

◎平成16年度学生募集

☆学校教育研究科(修士課程)

入学定員(全300人)を前期選抜試験および後期選抜試験の2回に分割して募集します。

〈前期選抜試験〉

◎学生募集人員 236人

▶学校教育専攻		
教育基礎コース		12人
教育経営コース		8人
教育方法コース		18人
生徒指導コース		8人
幼年教育コース	昼間クラス	8人
	夜間クラス	若干人
学校心理コース	昼間クラス	10人
教育臨床心理コース	昼間クラス	25人
▶障害児教育専攻		
▶教科・領域教育専攻		
言語系コース	昼間クラス	25人
	夜間クラス	若干人
社会系コース	昼間クラス	20人
	夜間クラス	若干人
自然系コース	昼間クラス	16人
	夜間クラス	若干人
芸術系コース		20人
生活・健康系コース	昼間クラス	16人
	夜間クラス	若干人
総合学習系コース	昼間クラス	20人
	夜間クラス	10人

◎出願期間 7月18日(金)～25日(金)

◎試験日程

筆記試験…8月23日(土)

口述試験…8月24日(日)

◎合格者の発表 9月12日(金) 10:00

〈後期選抜試験〉

◎学生募集人員 64人

▶学校教育専攻		
教育基礎コース		3人
教育経営コース		2人
教育方法コース		2人
生徒指導コース		2人
幼年教育コース	昼間クラス	2人
	夜間クラス	若干人
学校心理コース	昼間クラス	若干人
	夜間クラス	10人

教育臨床心理コース	夜間クラス	15人
▶障害児教育専攻		
▶教科・領域教育専攻		
言語系コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
社会系コース	昼間クラス	5人
	夜間クラス	若干人
自然系コース	昼間クラス	4人
	夜間クラス	若干人
芸術系コース		5人
生活・健康系コース	昼間クラス	4人
	夜間クラス	若干人
総合学習系コース	昼間クラス	若干人
	夜間クラス	若干人

◎出願期間 10月10日(金)～17日(金)

◎試験日程

筆記試験…11月15日(土)

口述試験…11月16日(日)

◎合格者の発表 12月5日(金) 10:00

※昼間クラスおよび夜間クラスのあるコースは昼夜開講制です。昼間クラスは兵庫教育大学社キャンパスで、夜間クラスは主に大学院神戸サテライト(神戸市中央区)で受講します。

☎入学主幹室 ☎0795-44-2067

◎大学院学校教育研究科(修士課程) 説明会

大学院(修士課程)の教育課程や新コース、新制度の概要について説明します。個別相談の時間も設けています。

◎日時 6月28日(土)、9月20日(土)

いずれも13:30～15:00

◎場所 大学院神戸サテライト

☎庶務課企画室 ☎0795-44-2011/2423 ☎0795-44-2009

office-2011@office.hyogo-u.ac.jp

◎ひょうごオープンカレッジ

「あなたの健康生活をデザインする
—こころとからだの癒しを求めて」

健康な生活を送るための24時間について「こころとからだの癒し」をキーワードに、健康を多角的にとらえ、個々のライフスタイルに合った健康生活をデザインする手法を学びます。

◎開催日 10月18日～11月23日の土曜日(全5回・11月15日はオフィスアワー)

◎場所 兵庫教育大学

◎対象 県内在住または在勤で学習意欲のある人

◎定員 約40人

◎受講料 2万円

☎ひょうごオープンカレッジ実行委員会事務局

☎078-362-3894 ☎078-362-3908

http://www.hyogo-intercampus.ne.jp/l-hyogo/

◎「青少年のための科学の祭典2003」ひょうご第9回大会に出展

小学生から大学生までの幅広い年代に自然科学の面白さや楽しさを実際に体験し、発見の喜びを知ってもらうため開催される科学の祭典。今年度は自然系教育講座の生物分野が「DNAを見たことがありますか?」のタイトルで出展し、合わせて自然系教育講座理科学分野の紹介をします。

◎開催日・場所

丹波会場/8月2日(土)、3日(日)・篠山市立味岡小学校(篠山市味岡新97-3)

姫路会場/8月9日(土)、10日(日)・姫路工業大学書写キャンパス(姫路市書写2167)

神戸会場/9月6日(土)、7日(日)・神戸市立青少年科学館(神戸市中央区港島中町7-7-6)

☎自然系教育講座生物学教室瀧美茂明教授 atsumi@sci.hyogo-u.ac.jp

◎附属中学校研究発表会

公開授業と教育講演会。研究テーマ「『確かな学力』を育む学習指導の研究—「わかる・できる・生かす」学びの創造—」

◎開催日 11月21日(金)

◎場所 附属中学校

☎附属中学校(担当:日高) ☎0795-40-2222

◎平成15年度スクール・パートナーシップ事業パンフレットを配布

学校教育や生涯教育の場に兵庫教育大学の教授らが「出前講座」をするスクール・パートナーシップ事業の平成15年度版パンフレットを発行しました。同事業を「教員の資質向上」「教育の質的向上」

「地域内教育の活性化」「児童・生徒等の学習意欲の向上」「生涯学習の充実」にどうぞご利用ください。

☎庶務課広報・連携担当専門職員 ☎0795-44-2053



Hyogo University of Teacher Education

編集後記

教育最前線の企画には、取材に応じてくださった方々をはじめ、多くの方々の協力を得ました。感謝申し上げます。この企画は、ひとりの編集委員の疑問から出発しました。素朴な疑問は良いけれども、間違いがあってははいけません。ある先生にお願いして、「地域連携」の本質から記事の企画・構成まで辛抱強く教えていただきました。ぜいたくな個人教授で久しぶりの学生気分に戻りました。目標は、素朴な疑問にも答えて、誰が読んでも分かる、ポイントを押さえた企画…。目標にどこまで近づけたか、ご批判ください。(ま)

◎あなたの声をお聞かせください

『教育子午線』では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりをめざしています。ご意見、ご感想、ご希望などがありましたら、どしどしお寄せください。

●あて先:〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1

兵庫教育大学庶務課広報・連携担当専門職員

☎0795-44-2053 ☎0795-44-2009 E-mail office-2053@office.hyogo-u.ac.jp

Kyoiku-Shigosen

教育子午線

第4号 2003年6月発行

発行/兵庫教育大学 広報誌編集委員会

URL http://www.hyogo-u.ac.jp

編集協力/(株)神戸新聞マーケティングセンター